

## あとがき

### 作業部会メンバーの感想

作業部会メンバーからは以下のようなコメントがありました。

☆ほんの小さな地域だけで活動していた自分が地域全体の事を考えたり、また物事を色々な角度から見る事が出来るようになったのは、この1年を通して参加したことの成果だと思います。今後はこれらの事を日常の活動に活かして行きたいと考えています。

☆地域福祉活動計画策定に係る中で、漠然としていた「区民が住み続けたい神奈川区の将来像」を具体的にイメージできるようになりました。多くの活動者の方とともに話し合いを重ねる中で、取り組むべき課題も明確になりました。

☆作業部会での策定作業を通して、地域で活動している方々の熱意をひしひしと感じました。情報や人材について抱えている課題の具体的な解決策を考える場面では、豊かなアイデアが次々と生まれていました。また、策定の過程でそれぞれの活動への理解が深まり、連帯感が芽生えていたように思います。

☆たくさんの活動者の方が交流を求め「地域をつなぐ交流会」に参加されたことが最も強く印象に残っています。作業部会は50回を超え、地域を思う情熱にあふれていました。もっと多くの方にこの情熱を伝えられたら、次の世代に引き継げるのでは。会話をするのがもっとも大切だと改めて思いました。

☆皆さんが地域のためにと、真摯に意見や議論を交わしている「場」に参加できたのはとても有り難い思いです。作業部会というとても堅苦しい感じがして少し行くのが億劫になりそうでしたが初めから自由に発言することが出来、心が軽くなるのを感じました。

☆作業部会に参加し、色々なことを学び、たくさんの人と出会うことが出来ました。一人でも多くの住民が「いつまでも住み続けたいまち」にするためにはどうしたらよいかという意識をもって、地域と係わり、また必要な情報を誰もが簡単に手に入れられ、共有し利用できる仕組みづくりをして、暮らしやすいまちにすることの大切さに気づきました。



2年間、52回もの会議に係わってくれた作業部会のメンバーや、分科会、地域をつなぐ交流会やアンケートなど本当に多大な協力をいただいた活動者の皆様には感謝の気持ち一杯です。長期に渡り係わってくれたのは、この計画に少しでも期待をしてくれていたということと、参加することでそれぞれに得るものがあったからではないかと思えます。また、アンケートや評価の手法など策定の上で様々な形で協力をいただいたアドバイザーの講師の皆様にも厚く御礼を申し上げます。係わってくださった皆様本当にありがとうございました。

区社協としても今回の策定における2年間の経験は区社協の求められている役割を実感し、今後どのように進むべきかが明らかにになった大きな経験でした。この経験は普段の業務の中では決して得ることができるものではなく、活動計画だからこそのものだと思います。区の活動者の役割を明らかにするという意味においても活動計画が大きな役割を果たしているということが実感でき、実践につなげることでどのように神奈川区が変化していくのが楽しみであり、また実践することがいかに重要かということを感じております。活動者の皆様とともに歩み、一步一步実践につなげていきたいと思えます。合い言葉は『1人の100歩より100人の1歩』です。

平成19年3月31日 神奈川区社協